

# 2014年度 学校評価報告書 (大阪聖母学院小学校)

学校目標 (園目標)	カトリックの宗教的な価値観を基盤として 『人を愛し、自らを高める強い意志と 豊かな心をもつ子どもを育成する』
---------------	---

校長	荒川 伸 二
----	--------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神に基づく教育の徹底</li> <li>・教育・指導の充実</li> <li>・財政の健全化</li> <li>・環境の整備</li> <li>・一体感の醸成 (情報共有)</li> </ul>
------	---

学 校 自 己 評 価			
年 度 目 標		年 度 評 価 (2015年3月31日 現在)	
番号	大目標	重点目標	具体的方策
1	建学の精神に基づく教育の徹底	①建学の精神「愛と奉仕と正義」に基づいた心の教育を徹底する。 ②宗教の授業を通して、子どもたちが友だちを大切に、いじめをしない学校づくりを目指す。	・教員は毎日建学の精神を唱和し、教室にも『愛・奉仕・正義』を掲示することによって教育活動を展開する上で、建学の精神を常に意識する。 ・毎朝「今日のみ言葉」を唱え、子どもたちの心の育成に努める。 ・宗教の授業を通して、児童が『友だちを大切に作る心』を常に持つよう指導する。(ワークシヨップ、エンカウンター、ソーシャルスキルなど)
2	教育・指導の充実	①学習支援・カリキュラム運営に伴うレベルの高い授業を提供する。 ②児童対児童、児童対教師が良好な関係を保てるよう、学年・管理職との連携を図り、予防的措置に重点を置く。	・教員の授業力向上のために各教員の公開授業を日常的に実施する。研究授業科目は算数科とする。 ・漢字検定・数学検定・JET(3年以上)を実施し、客観的に学力到達度を確認し、児童の意欲を高めていく。 ・中学入試を視野に入れた高い学力を保證できるように、習熟度別指導など児童一人ひとりに合った指導を展開する。 ・児童同士の関係を全員で観察し報告し合い、早いうちに人間関係を修復する迅速な対応につとめる。 ・家庭との良好な関係を保てるよう、連絡を密にとり連携して児童への対応にあたる。 ・聖母教育支援センター・スクールカウンセラーとの連携し、児童支援や保護者対応にあたる。
3	財政の健全化	①私学の教員として学校経営の視点を持ち、経費削減に努めつつ教育活動にあたる。	・紙の再利用、節電、節水など資源の節約に努める。 ・各教員が、実践する教育内容を吟味し、予算を適切に使うことに努める。
4	環境の整備	①学習・あそびに関わる教育活動を安全かつ円滑に行えるよう、環境整備に努める。	・各教員担当箇所を点検し必要箇所を修繕した。 ・老朽化による水道詰まりが改善した。 ・校舎壁面及び窓枠の防水処理が施された。 ・空調による授業中の騒音が解消された。 ・屋内消火栓に備えている計17栓、34本を新規ホースに入れ替えた。 ・高圧受電設備のうち、重要度・危険度の高い高圧ケーブルおよび遮断器を更新した。
5	一体感の醸成	①保護者との連携を密にし、一人ひとりの児童に寄り添った指導を行う。 ②児童の学校生活の様子をできるだけ具体的に知らせ、教育活動を理解してもらう。 ③教員同士はもちろん、地域家庭支援室とも常に連携をとる。 ④ さくら会と連携し、卒業生との円滑な交流を図る	・保護者からの要望に対する報告・連絡・相談において、これまで以上の徹底を図る。 ・学級委員で編成する「広報部」「文化教養部」「ボランティア部」と連携し、保護者に満足していただける活動を計画していく。 ・ホームページの『ニュース』『入試情報』などを、これまで以上に更新し、多くの情報を発信する。 ・『地域家庭支援室』と連携をとって、児童への紙芝居実施などをとおして児童支援に努める。 ・さくら会の行事(総会、運動会での売店、成人式など)を協力して行う。

学 校 関 係 者 評 価
実 施 日 2015年4月25日
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
学校関係者として、保護者会役員・同窓会役員・近隣のカトリック教会の司祭の方々にお願いをした。 【建学の精神に基づく教育の徹底】 ・大人になって人生の岐路に立ったときに、小学校で受けた宗教教育を思い出す。小学生が在校時に宗教教育が役立っていると感じているかどうかはあまり意識しなくてもよいと思う。むしろ、在学中には意識していなくても大人になってからその価値観の大切さが分かる。 ・自分が好きと思えることに宗教が生かされるべきであり、自分の命は神様からもらった大切な命であり、一緒に平和を作り上げていく友だちの命も同様に大切だということを学んでもらいたい。だから、友だちに声をかけよう、挨拶をしようという呼びかけが大切になる。宗教の授業で、子ども達に自己肯定感を持たせ、神様の温かい愛を伝えてほしい。 【教育・指導の充実】 ・1年間通して先生がよく子どもに関わってくれてありがたかったという保護者が多くいる。 ・先生という仕事子どもに与える影響は、とても大きい。子どもは、卒業後も先生との思い出や関わりを大切にしている。このような教育をしてくれたことに感謝しているとともに今後の教育活動にも大いに期待したい。 ・学校カウンセラーがいるということは大切だと思う。東大生の8%が何らかの発達障害を持っているといわれる昨今、学校において何らかの障害を持つ子どもへの対応はこれからますます重要になる。 ・短縮授業に入る時期や短縮授業期間の下校時刻(11時30分)が早い。もう少し子どもをみてほしい。 【環境の整備】 ・7時15分から8時までの香里カトリック教会の前の横断歩道付近は通勤(徒歩、自動車や自転車)の人達が多く、やや危険だと感じる。 【一体感の醸成】 ・小学校の保護者が子どもの成長のために小学校と情報を共有しあうことが肝要である。特に、子どもが先生に大切にされていると感じることが必要だと思う。そのために学校はいろいろな手立てを講じ保護者と連絡を取りやすい環境を作ることが大切だと思う。 【その他】 ・女子の内部進学については、合格後のコースがどうなるのか、また、友達関係はどのようにしていくのかなど中学生生活を視野に入れた進路指導をしてほしい。 ・子どもや保護者にアンケートを実施してくれるということは、学校が保護者の思いや願いを聞き対応しようという姿勢を持っていること表れであり、とてもありがたい。具体的には、できることできないことをはっきりさせて対応することが大切である。 ・保護者に時間的余裕がほしいので、音楽会当日の保護者の子ども引率を無しとしてほしい。 ・給食の味を改善してほしい。 ・運動会の席取り等、保護者のマナーの改善を望む。